

みのりTIMES

内部向け情報誌

生活介護・就労B型&グループホームの情報誌

2022
12/1

12・1月号

社会福祉法人みのり福祉会
令和4年11月30日発行

【発行】社会福祉法人みのり福祉会
多機能型支援施設みのり・グループホーム

<本部>

〒350-1305

埼玉県狭山市入間川 3273-23

TEL: 04-2954-8566

FAX: 04-2954-2646

e-mail: t-minori@bell.ocn.ne.jp

HP: <http://www.minori-fukushi.or.jp/>

ホームページはこちら！
ブログも随時更新中！



あおぞらいちば 《作文コンクール》

全国小・中学生障がい福祉ふれあい作文コンクールの選考会が10月にありました。

埼玉県では170作品の応募があり、小・中学生別で各5作品、計10作品の最終選考を行いました。全作品を読み選考していく中で、最初はテンポよく選考することができました。読んでみると、いやいや絞り出して書いたであろう文章はすぐわかるもので、逆に感じたことを伝えたいという文章力にはかないませんので、テンポよく選考できたものでした。

最終選考では、選考委員の意見もやはり分かれるもので「文章としてまとまりが薄いがエネルギッシュな作品」と「読みやすくまとめており伝わりやすい作品」の選考となりましたが、最終的には多数意見の後者の作品が選ばれました。当然この二つを併せ持つ作品は多数一致で選ばれるわけで各3作品程度は「エネルギッシュで読みやすくまとめられた作品」でした。

このことを、私たちの仕事に置き換えると、エネルギッシュに自分の仕事をこなしたり、支援を行うことは感動を生み出すものですが、大切なことはそれが相手に伝わっているか？ということであり、伝えるためには読み手(相手)を“意識”する事が必要になります。支援に置き換えると「アセスメント」に通じるところです。この意識する行為こそが“配慮”の始まりであり、支援に置き換えた場合「権利擁護」に通じていきます。そして“相手”とは利用者さんや個人のみならず、職場や会社、時には地域社会であり、意識し配慮することを置き換えると、職場風土や会社理念、そして共生社会の実現に通じることとなります。

小学生のころの読書感想文の宿題等、原稿用紙半分くらいは本の文章を書き写し最後に少し感想を入れて提出した記憶がありますが、文章を書く力と社会で仕事をする力には近似性があり、義務教育時代の勉強とは社会に出た時役立つものであることを社会人終末期に気づかされた出来事でした。

理事長 坂本 光雄

生活介護ぶりき班 外出訓練の報告

11月17日(木)に埼玉県立川の博物館へお出かけしました。

当日は晴天に恵まれ、絶好の外出日和に！

お昼ご飯は施設内のレストランでそれぞれ注文したメニューを楽しみ、充実した一日となりました♪



第27回 みのり祭 が 開催されました

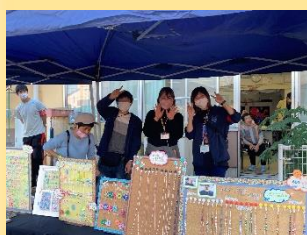
3年ぶりに開催された「第27回みのり祭」。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、規模を縮小して開催しました。キッチンカーや外部団体（アスキージャパン様、鶴の子会様）、久しぶりのお祭りの雰囲気に皆さん大盛り上がり!!楽しい時間となりました。



キッチンカーの様子



これからみのり祭をはじめます!!



各種販売の様子
(授産品やフリーマーケット)



上:アスキージャパンの皆様
左上:鶴の子会の皆様

Twitter で配信中

多機能みのりでは、twitter を通じてご利用者さんの
創作作品や法人の情報などを発信しています。ぜひご覧ください♪
アカウント: @minori_fukushi
(社会福祉法人みのり福祉会 多機能型支援施設みのり)

